

行政視察に行ってきました

総務常任委員会 定住人口増加促進特別委員会

参加者

- 大岸真弓 依光美代子
- 山崎真幹 島岡信彦
- 比与森光俊 山本芳男
- 利根健二 森田雄介
- 山崎晃子 石川彰宏
- 小松紀夫

視察日・視察先・視察事項

1月19日～20日

- ① 広島県安佐南区八木地区
【大規模災害の跡地と復興状況】
- ② 広島県東広島市役所
【大学のある街づくり】
- ③ 広島県神石高原町役場
【過疎対策・人口定住対策】



教育厚生常任委員会

参加者

- 織田秀幸 濱田百合子
- 甲藤邦廣 森田雄介
- 村田珠美 石川彰宏

視察日・視察先・視察事項

1月24日

- ① 岡山県勝田郡奈義町
【子育て支援について】

産業建設常任委員会

参加者

- 利根健二 爲近初男
- 小松 孝 山崎晃子
- 山崎龍太郎 小松紀夫

視察日・視察先・視察事項

1月26日～27日

- ① 香川県三豊市役所
【産業振興条例】
- ② 広島県廿日市市（宮島）
【世界遺産「厳島神社」のある観光地】
- ③ 株式会社水みらい広島本社
【「水みらい広島の取り組み」水道事業における公民連携】

総務常任委員会・定住人口増加促進特別委員会

① 平成26年8月20日の豪雨による土砂崩れで甚大な人的、物的被害を出した。住宅再建など復興の支援とともに、災害跡地の保存や石碑建立等の取り組みも支援している。

② 広島大学の統合移転を機に、市街化形成や教育環境整備、地域課題の解決など「大学のある街の良さ」が十分に活かされていた。本市と比較するには条件が違いすぎるが、地域との合意形成の仕方、ネットワーク構築の仕方は参考とすべき点がある。

③ 合併特例の終了や人口ビジョン等の根拠を基に確認しながら、過疎対策事業に取り組む姿勢に、地域経営に対する本気度を見るこ

農業部門での品種別反当収益の明確化、地域おこし協力隊の導入に向けてのミッションの確定、NPOを支援するふるさと納税、地域通貨を活用した定住支援等々、見習うべきものや考え方が多くあった。



教育厚生常任委員会

① 奈義町は、平成28年4月1日現在、人口6182人、岡山県の北東部に位置し、四季折々の美しい自然に囲まれた町である。陸上自衛隊日本原駐屯地・演習場があり、自衛隊と共存共栄をしているコンパクトな町としての印象を強くした。

行政と地域が協働で、きめ細かに子育て世代を応援し「妊娠出産期から乳幼児期や就学期まで、さまざまな手厚い支援や、住まいの充実などを図る取り組みの結果として、出生率が2・81となった」との話が印象的だった。

平成の大合併で合併しないことを選択し、小さいからこそできる、きめ細かなまちづくりに努めている。

また「子育てするなら奈義町で！」との子育て応援宣言を、平成24年4月1日に掲げ、首長の子育て支援

への強いリーダーシップのもと、子どもからお年寄りまでが住みよい「活力と笑顔があふれるまちづくり」を目指し、子育て・医療・福祉などライフステージに合わせたサービスの充実に努めている。



産業建設常任委員会

① 三豊市では、商工関係と農政関係が別の部局になっているなど、部・課等の配置を再検討すると産業振興計画がより良くなる。組織の部局制度を含め、整理をした方が良くかもしれない。

また「ワーク・ライフ・バランスについて、取り組む」とあったが、国の施策でもあり、官民間わず重要である。さらに、地域振興券事業の大規模店と地域小規模店との差別化は参考になった。

② 観光客はかなりの数であったが、他の観光地に比べて中国人が少なく、欧米人の比率が高い。市町村合併によって、入り口（対岸）整備もされ、観光客が倍増し、町屋通りには、町屋建築の民家や店舗があり、情緒漂う魅力がある。

③ 平成24年9月、広島県と民間会社が出資して「水みらい広島」を設立。県営水道が抱える課題を解決し、将来に渡って料金上昇を抑え、安心・安全・良質な水の供給を図る目的で、水道技術も継承し、県内水道の管理の二元化を進めている。

